学位授与式を終えて

浄土宗教師修練道場
第二回海外留学僧　安井隆同

おかげさまで、この程、平成元年一月二十四日、カルカッタ大学より私は、博士号（Ph.D.）を授与されました。これは、私の昭和五十八年一月から昭和六十三年一月までの、インドでの五年間に亘る、原始佛教哲学の研究を纏めた学位論文、『THEORY OF SOUL IN THERAVĀDA BUDDHISM』（原始佛教における我の論理）によって授与されたものです。

顧みれば、いろいろな事がありました。その中でも、特に嬉しかった事が二つあります。

一つは、カルカッタ大学で、人徳第一のスコマル・チョウドリ博士（パーリ学部助教授）と学究第一のディパック・クマール・バルア博士（パーリ学部長）の両先生から、懇切丁寧な指導を賜った事です。学位論文の総纏めの頃は、指導教授のチョウドリ博士の家に、二、三日泊

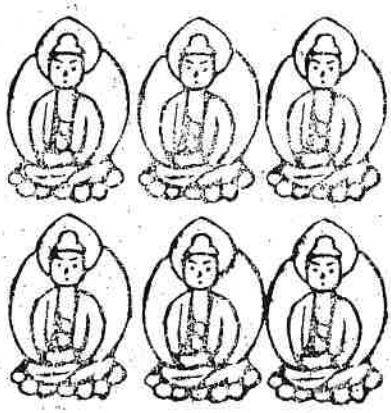
り込みの時もしばしばであった。朝起きて、直ぐに先生と向きあい、論文の検討、昼食、その後、先生とともに二時間余り昼寝、この昼寝が何んとものんびり……いいものだ。インドならでは……。どちらからともなく起き出して、二人でおいしいダージリンティで喉をうるおし、また先生と机に向きあい論文の訂正、書き直し……等々……夜までと言った具合で、三食昼寝つきの何んとものんびり、有り難い指導を受けた。

もう一つは、善光寺海外留学僧に決定した時です。それはインド留学も三年が過ぎようとして、留学費も乏しくなり、思案している頃のことです。昭和六十年十二月八日、お釈迦さまが悟られた日、悟られた場所のブッダガヤー大塔を参拝して、暫く草むらにひとり座している時、同じく大塔を巡拝に訪れた、善光寺海外留学僧第一回タイ派遣の梅田尚平師に遭った。ここで善光寺海外留学僧育英会の話を聞き、これは不思議な縁と、私の諸事情を書き、育英会宛に手紙を出しました。早速、黒田武志理事長より、『どうぞ頑張って下さい。やる気さえあれば、おのずと道は開かれる。お金は何んとでもなるもの。当育英会は、現在アメリカ、タイに限っているが、何んとか協力してあげたい。理事会に諮るため、題は何んでもいいから、小論文を至急送って下さい』と、独特の大きな文字の短い、何んとも言えず底力の湧いてくる返事を頂いた。すぐに、「インドの大地を歩む」と「原始佛教における無我」の二つの小論文を送った。すると間もなく、『あなたを当育英会の第二回留学僧に決定しました。毎月幾らの奨学金が必要か知らせて下さい。あなたに関しては、一年とは限らず何年でもインドで思う存分研究をつづけて下さい。必要なだけの奨学金を支給します』と、黒田武志理事長から、何んともおおらかな、

底の抜けたような便りを手にしました。

この底ぬけの援助によって、あと三年でも四年でも、のんびり焦らずに留学できるとの甘え心とともに、心豊かにおおらかになった。これらの、見えると見えない不思議な力によって、すべてが好転し、その後、二年足らずで学位論文を提出し帰国することができた。

ただただ、善光寺黒田武志住職はじめ檀信徒のみなさま、善光寺海外留学僧育英会、そしてカルカッタ大学の諸先生、陰となり日向となって私を励まし、また反対に貶して下さった方々にも、私をこれまで見守って下さった両親、ご先祖さまに感謝、感謝のみです。

私自身の力では、どうにもならない事に直面した時に、ただただ無心に立ち向かっていると、どこからともなく不思議に、不思議な力が働き、必要な時に、必要なだけのものが与えられた。まったく不思議だ。この不思議が私を活かしているのか。おかげ、おかげの、おかげさまが身に染む……しみじみと……。

合掌